

東日本大震災から考える 防災と社会課題

木村紀夫



木村 紀夫 (きむら のりお)



team 汐笑(ゆうしょう)プロジェクト代表・大熊未来塾塾長

1965年福島県大熊町の海沿いの熊川部落に生まれる。自転車で放浪生活をしつつ自給自足的な生活に憧れた20代を経て、帰郷し結婚、娘2人を授かる。

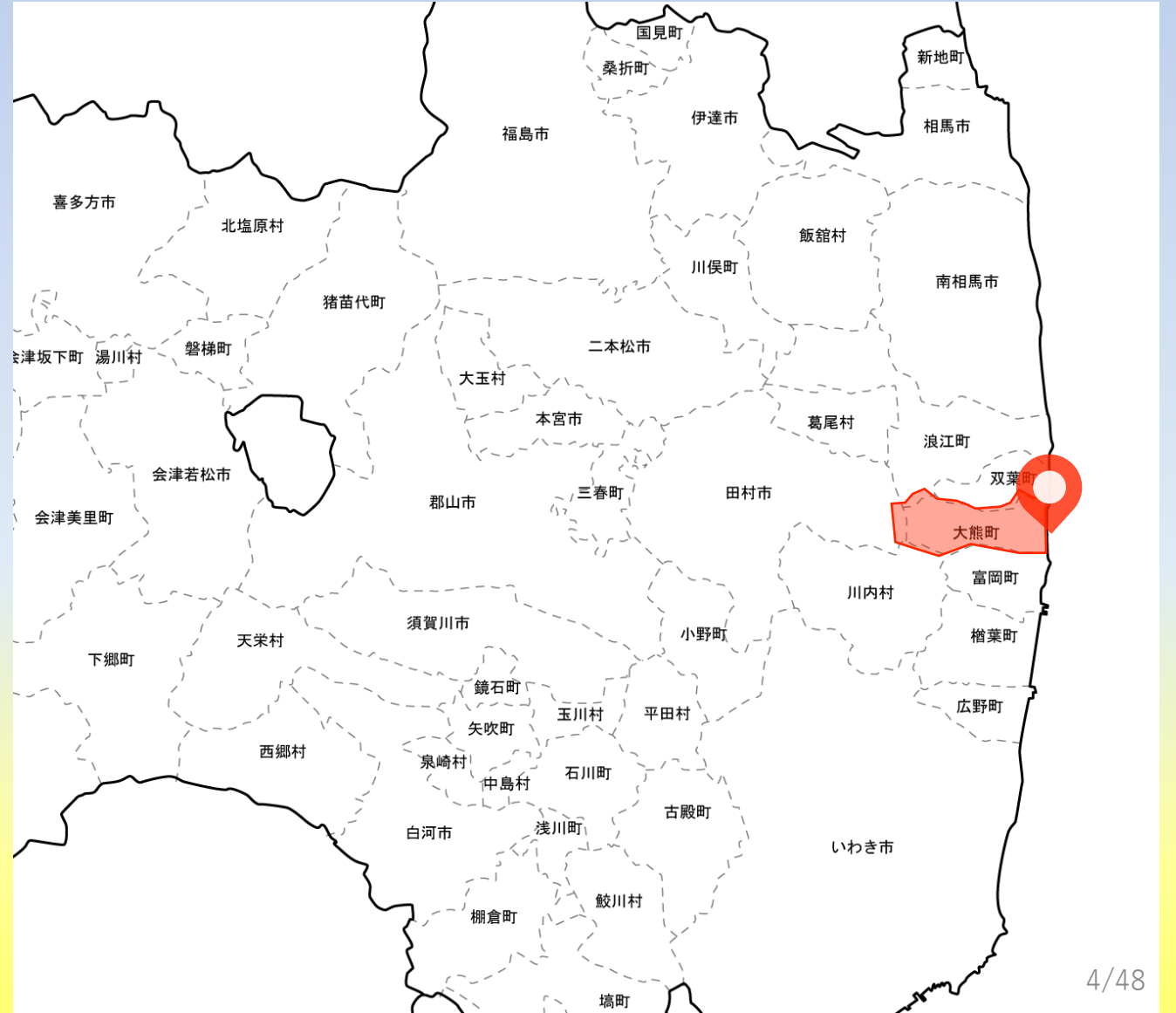
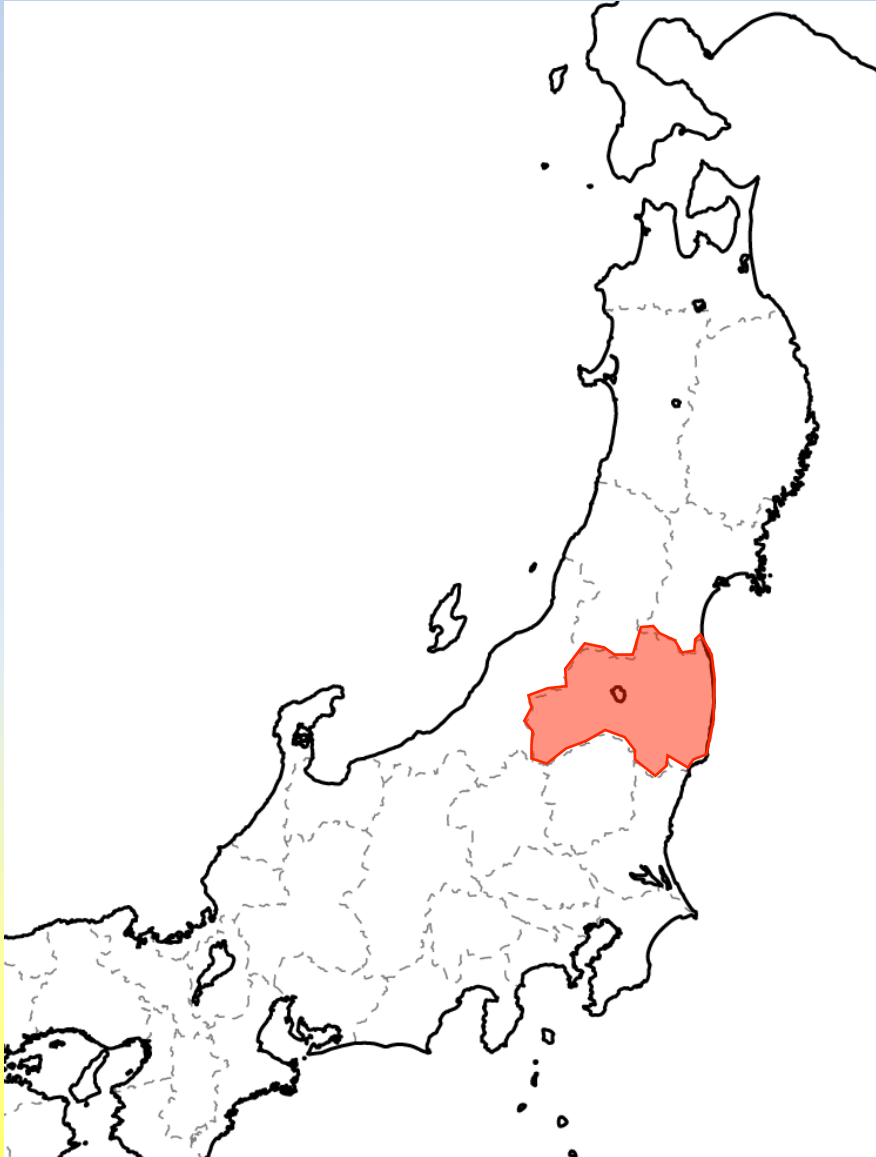
45歳で東日本大震災により被災。津波で父と妻、次女を失い、原発事故で故郷を追われる。父と妻の遺体は見つかるが次女：汐凧(ゆうな)の遺骨の一部発見までに5年9か月を要する。捜索の傍ら、避難先の長野県白馬にて便利な物に頼らない生き方を追求し、震災の伝承だけでなくこれからの生き方に疑問を投げかけるようなイベントを開催。

現在は福島県いわき市に拠点を移し、中間貯蔵施設内の大熊の自宅跡に通い発信をつづけ、自身の得た教訓を次世代に絶やさない未来を町で実現するために日々奔走している。

= 本日のお話 =

1. 大熊町の位置と現況
2. 木村家の震災体験から考える防災
3. 見えてくる答えのない社会課題
4. 大熊未来塾の取り組み
5. 能登地震に思うこと

【大熊町の位置と現況】





福島県 大熊町管内図

令和4年7月1日現在

2019年4月、避難指示解除

2022年6月30日、
避難指示解除

2045年まで
帰れない
中間貯蔵施設建設予定地

木村家自宅跡

↑ 新庁舎の完成、復興住宅の整備

新しい街が造成されていく



大熊町の新庁舎



復興住宅



学び舎 夢の森

復興と共に消えていく街並み



壊す必要のないものまで？



2023年夏、大熊町図書館解体



大熊にも神戸から
希望の灯り



岩手県大槌町の希望の灯

大義のために慰霊の気持ちも示せない大熊町



森を削って工業団地が造成されていく・・・

これが復興？



木村家は、福島第一原子力発電所の南、約3キロにありました。



【木村家の震災体験から考える防災】



津波に襲われた故郷、熊川

写真提供：読売新聞

帰宅すると自宅は跡形もなく流されていた



家族3人がいない！

王太朗(わたろう)77歳



深雪(みゆき)37歳



次女、汐凧(ゆうな)7歳



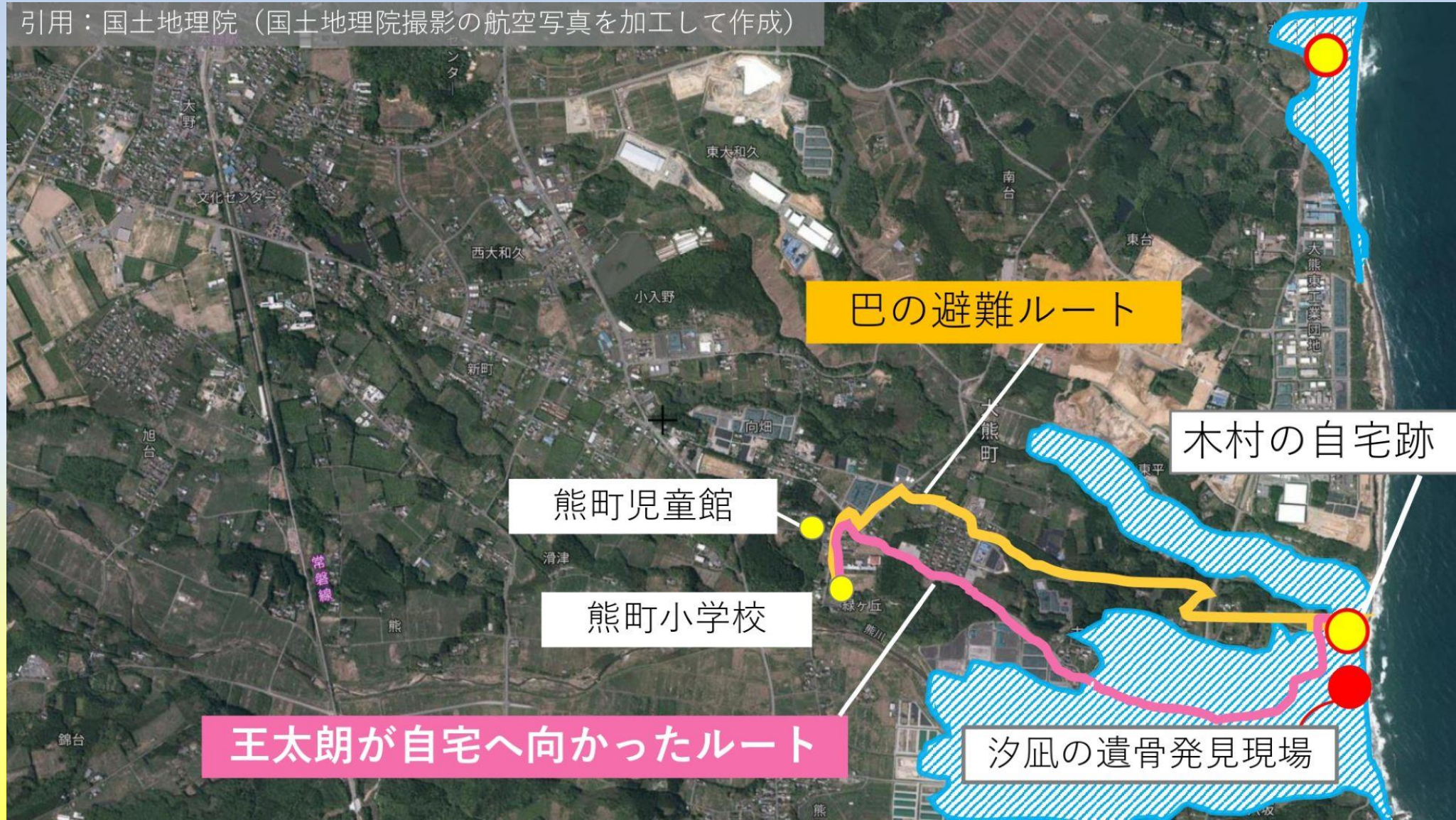
裏山からベルが・・・



ベル（震災当時8か月）と汐凧（震災当時7歳）

あなたが王太郎（わたろう）だったら？

引用：国土地理院（国土地理院撮影の航空写真を加工して作成）



= 教訓1

平和な時こそ大事

=

「つなみてんでんこ」
という言葉がありますが・・・

でも、助けに
行っちゃうのが人間

じゃあどうする？

災害前に家族と共有

出来れば、地域コミュニティ内でも・・・

= 教訓 2

=

経験者の後悔を聞く

一声かける

引き渡さない！
という選択肢も

東日本大震災被災地では
当たり前になっている



熊町児童館にて、2010年夏
右端が汐凧（ゆうな）

= 教訓3 =

歴史から学ぶ

東北沖で起きた主な巨大地震

- 869年 ▶ 貞観地震 (M8.3以上) **最大級**
- 1611年 ▶ **慶長三陸地震** (M8.1、M9.0との新説)
- 1677年 ▶ 延宝房総沖地震 (M8.0)
- 1896年 ▶ 明治三陸地震 (M8.2)
- 1933年 ▶ 昭和三陸地震 (M8.1)
- 1968年 ▶ 十勝沖地震 (M7.9)
- 2011年 ▶ 東日本大震災 (M9.0) **最大級**

※地震調査委員会の長期評価などに基づく。Mはマグニチュード

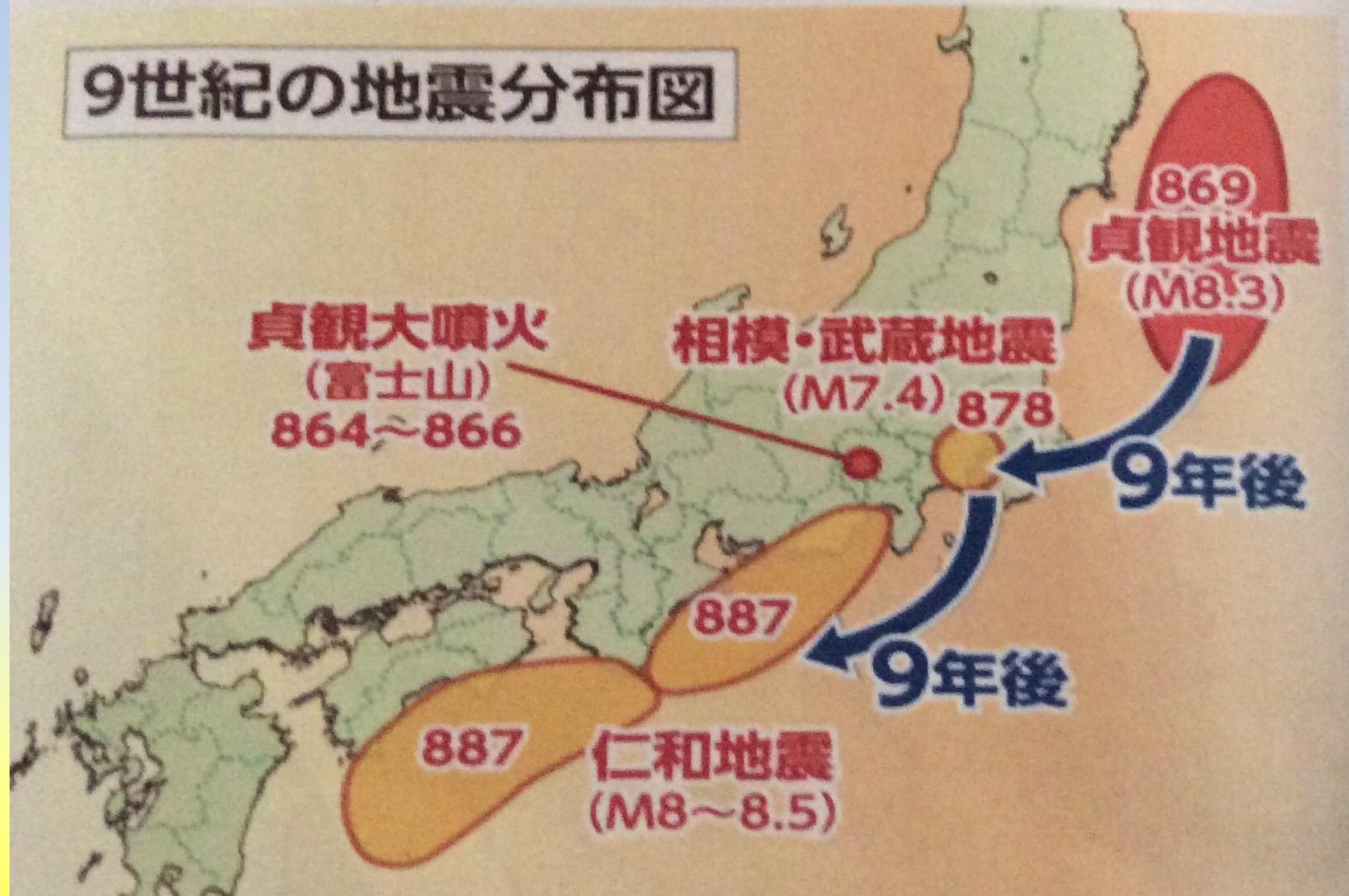
福島には津波が来ないと
思い込んでいた

貞観地震を知らなかった

東日本大震災を
1000年後まで伝える

図1 貞観の時代の地震発生状況

9世紀の地震分布図



= 教訓4 =

「違う！」と言える勇気



津波で半壊した熊川区公民館

= 教訓 5 =

意識を高めることこそ重要



防潮堤は命を救えるのか？

建設中の熊川海岸の新しい防潮堤

【震災から考える社会課題】

検索が出来ない！
(2011年3月)

原発事故による
放射能汚染で
検索が出来なくなる

捜しています!!

大熊町で災害津波後
家族3人が行方不明
です

木村 ^{ユウナ} 汐風 7才

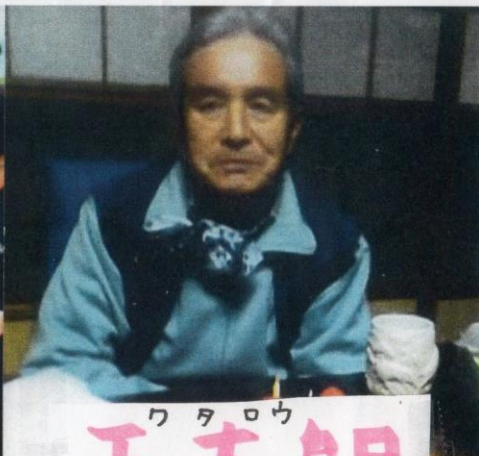
^{ミユキ} 深雪^妻 37才

^{ワタロウ} 王太郎^{祖父} 77才

少しの情報でもいいので。
見かけた方は教えてください!!



^{ユウナ}
汐風



^{ワタロウ}
王太郎



^{ミユキ}
深雪

連絡先

- 木村 紀夫^父 090- [redacted]
- 小中 真生^{おは} 090- [redacted]

ひとりで捜す日々(2011年～2013年)



写真提供：尾崎孝史



写真提供：岩波友紀

搜索にボランティアが参加！ (2013年9月～)



中間貯蔵施設の話(2014年)



遺品の発見



環境省による搜索 (2016年11月～2017年)



発見！（2016年12月9日）



遺骨の発見で気が付いたこと

汐凧は
津波で亡くなったのか？

置き去りにされたことで
亡くなったのか？



熊町幼稚園入園時の汐凧
津波浸水域から自衛隊が回収した写真

5年ぶりの遺骨発見で気が付いたこと



©Natsuki Yasuda/Dialogue forPeople

2022年1月2日

防潮堤の下にはまだ遺骨が・・・

復興の下で捜したいと言えない遺族がいるのではないかと・・・

それが復興？

見えてくる社会課題



汚染された場所でミサゴの営みは続く



人はそれでいいの？



生きるためだけでなく
贅沢に生きるその裏で
苦しんでいる生き物や人

未来の人間にも
負の遺産を残し続ける

後ろめたくはないですか？

じゃあ、
どうしたらいいの？

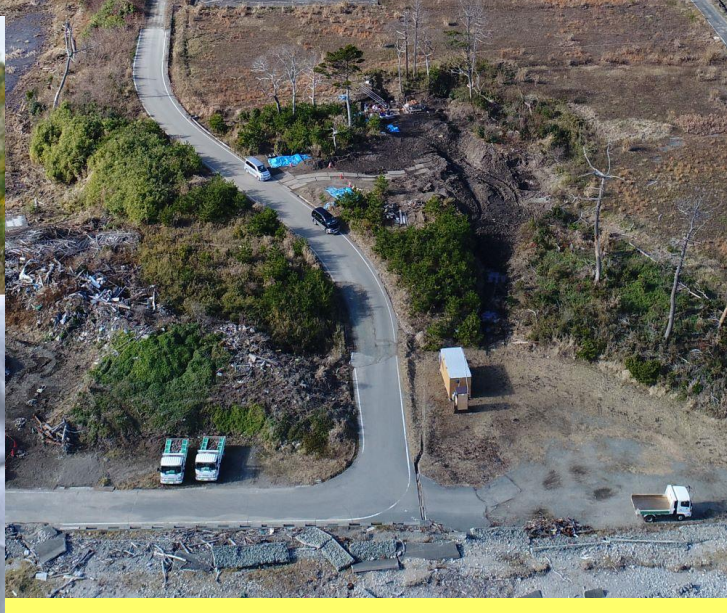
みんなで
考えてみませんか？



【大熊未来塾の活動】

フィールドは中間貯蔵施設エリア内

ドローン撮影：海老沼明



原子力災害の影響で取り残されたものを価値に変える
遺構×語り部＝より自分ごとに



熊町小学校



熊川区公民館



栽培漁業センター

伝承フィールドドからの オンライン授業や 講演活動も

信越放送提供



伝承の目的はふたつ



誰も犠牲にしない防災

誰も犠牲にしない社会

1000年後の先まで伝えるために

次世代による
視察事業

大熊町での
聞き書き

大熊町の
震災伝承に
つなげたい



大熊未来塾の課題 = 伝承者がいない

大熊未来塾の語り部
ガイドは木村のみ

伝承に意識の
向かない大熊町

町民の語り部を
増やしたい

伝承の仲間づくりサミット
2024年2月11日開催



木村に代わって案内する大熊町民

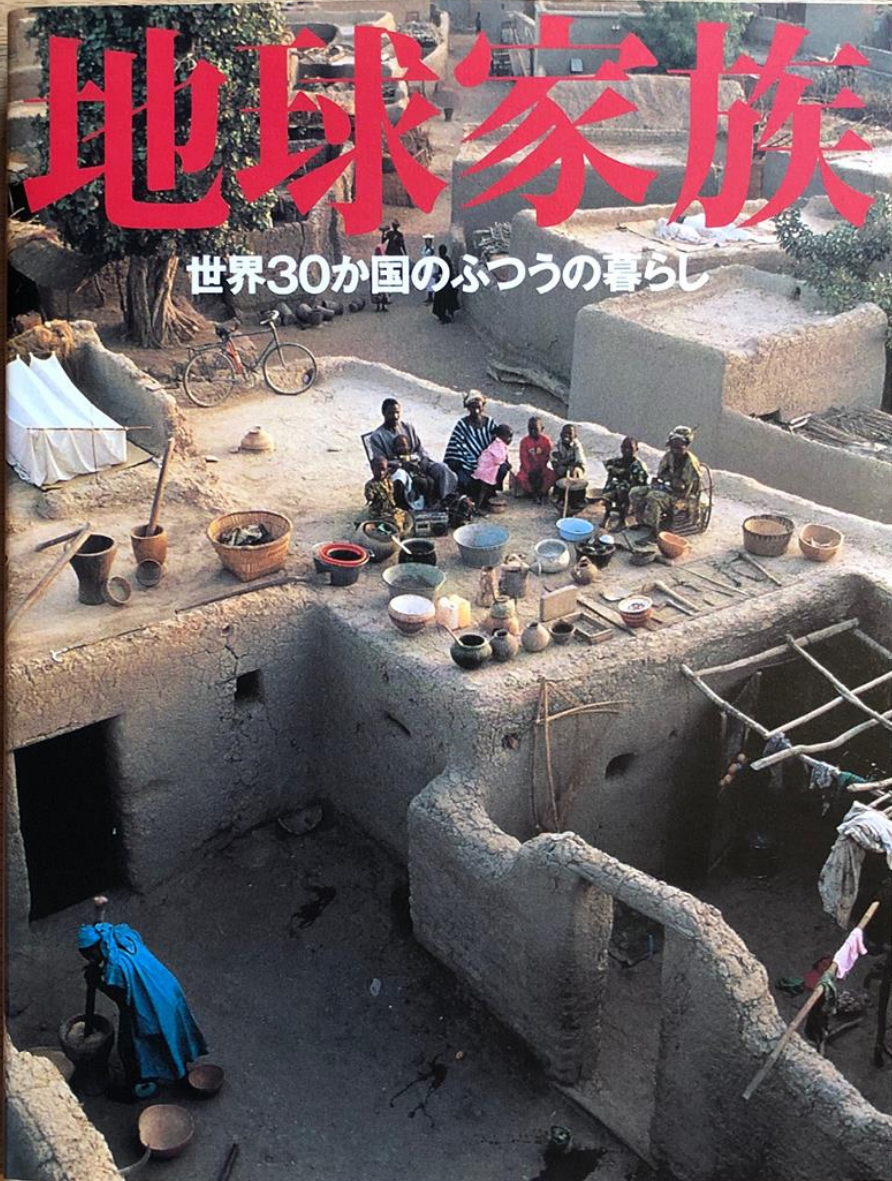
【能登地震から感じたこと】

津波から逃げ切れるのか？

原発に頼ってていいのか？

地球家族

世界30か国のふつうの暮らし



家財の多さが地球の負担になる
同時に災害時の凶器にもなる





ご清聴、ありがとうございました！